

様式第 1 号 (第 6 条関係)

会 議 録

会議の名称	西東京市市民憲章検討委員会第 6 回会議録
開催日時	平成 15 年 10 月 15 日 (水) 午後 6 時 30 分から 10 時 50 分まで
開催場所	西東京市役所田無庁舎庁議室
出席者	三輪委員長、上田副委員長、塩月委員、藤川委員 (事務局) 企画課 池澤主幹、櫻井主査、安藤主任
議 題	・市民憲章検討委員会第 5 回会議録について ・市民憲章の文案について
会議資料 の 名 称	(1) 委員による市民憲章の文案 (2) 市民憲章検討資料
記録方法	会議内容の要点記録

会議内容 発言者名	発言内容
三輪委員長	<p>開会 塩月委員が遅れると連絡がきている。 3人で過半数となるため会議をはじめます。</p> <p>(市民憲章検討委員会第5回会議録について) ・この内容で了承する。特別に何かあれば事務局に申し出てほしい。 ・細かいことだが、見出しの部分にカッコがついたりついてなかったりするので、見やすく改善してほしい。</p> <p>(本日の内容の確認) ・配布資料の確認 ・前文を確認する、本文を2案にしぼりこむということで、1つの前文と2つの本文を決めたい。本文については、なるべく趣の違うもの2案をパブリックコメントに付すこととする。 ・その他の部分では、 市長に対する要望も含めた付帯意見等の意見交換をしたり 委員会の報告書のスタイル・内容をどういうものにするのか 第7回会議以降の日程</p> <p>(委員会の立場・態度の確認) ・市民の意見を束ねるかっこうで委員会をやっているのでは、この会議の中だけでいろいろな案を云々するというのはよくない。我々なりに誠実に、多くの市民の意見を取り入れる格好で市民憲章をつくっていかなくてはいけない。また、提案として出したものが、どういう受取られ方をするのかについて謙虚に耳を傾けながら最終案を提示させていただき、そういう方法で進めるべきだと思う。 ここで確認しておかなくてはいけないことが2つある。 1. アンケートの結果を踏まえて、その取扱いについて再認識したい これについては資料で説明したい 2. パブリックコメントを実施したときの反応について 他市の例を見聞きした範囲ではそれほど多くのレスポンスがあるわけではないようだが、レスポンスがいくら少なくとも反対意見が極端に多くないということは、消極的かもしれないが承認していただいていると捉える。しかし、大きな反対意見や強い要望があった場合は最終案に加味していくことになる。我々の立場としてはパブリックコメントという手続きを重視して提案する。</p> <p>(市民憲章アンケートの分析について) ・この市民憲章の検討委員会というのは、市民参加で作るということで、我々が気をつけなくてはいけないことは、どこまで市民の意向を盛り込めるかということ、与えられたシステムとかデータをもとに対応していくのが我々の態度でしょうから、アンケートの結果は重視すべきと考えている。 ・市民アンケートについて前々回の資料をもとに検討する。そのときに、形容詞とか形容語の意味的な重なりがなるべくないようにという検証をするが、カウント数の多いものをひろいあげて、どういうことばとどういうことばがイメージ的に近い関係にあるかを検証することになる。</p>

たとえば、「やさしい」と「美しい」はまとめられるか、「美しい」と「あかるい」はどうかなど、ことばの持つイメージが重なり合う部分はあるだろうというものをまとめていく。そして、キーワードについても、たとえば、「やさしさ」・「ふれあい」・「思いやり」などということばは、「美しい」という形容詞よりも、「やさしい」・「あたたかい」というようなことばに近いイメージをもっている。

このような考え方でまとめたものが資料として配布している「市民アンケートの結果（回答上位要素によるイメージ分析）」である。市民の方のアンケート結果をイメージ的に整理してみますと、かなりはっきりみえてくることがある。

それは、西東京市のこれからの方向として一番重視しなければいけないことは、おそらく「やさしいまち」という方向を目指すべきだろう、また「美しいまち」を目指すべきだろうということで、資料にあるとおりカウントが示している。

そのあとは少し差があるが、「明るい」・「楽しい」・「元気な」・「活気」とか、これもイメージ的には近い位置にあることばといえるが、カウントも700ほどになるので、これも重視せざるを得ない。

そのあとはいくらか問題があるところ。イメージ(4)では、「すばらしい」とキーワードの「希望」・「未来」・「夢」というのは近い関係にあり、数からいうと相当数になる。イメージ(5)は、「住みよい」だが、形容詞で単独でトップである。次の「豊か」というイメージも相当数の人が欲している。その次にくるのが、「安全な」・「平和」などのことばですが、確かに重要視される方もいますが、カウントからすると総体としてはそれほど多くないという結果である。

さて、問題というのは、「よい」だとか、「住みよい・すばらしい」ということばは、何もかも含んだことばに近い。たとえば、「住みよい」といっても、この表では「便利～」の横にかいてあるが、福祉的なこと、環境のこと、交通の便利さなど、いろいろなものが含まれているかもしれない。ということでは、「住みよい」・「すばらしい」ということばは他のイメージとオーバーラップしてくる。

だから、1つの方法として、このような何もかも含んだような形容語は、前文にもっていてもいいわけである。たとえば、前文に、「あかるく住みよいまちにするために市民憲章を定めます」、というように書くこともできる。

（アンケートの取扱いなどについての意見）

・アンケートは反映されるべき。委員会で方向性は打ち出していかなくてはいいと思うが、その内容とかどういうものを盛り込んでいくかということではアンケートをとったわけですから、このアンケートの中から使っていくこと、アンケートの反映で参加したという意識づけになると思う。アンケートの内容の形容詞・キーワードが全部使えるわけではないから、今の西東京市、これからの西東京市に必要なことばを選んで使ったほうが、みんなが参加したという意識づけになると思う。

・できるだけ市民の声をきき入れることは大事なので、アンケートは尊重すべき。

・ここに出てきていることばをそのまま使わなくても、住みよいまちにするにはこうしたらいいと考えられるので、こだわって形容詞だけを特別にとりあげたものを入れなくてはいいとは思えない。

・委員それぞれに、思想・考え方・主張はあると思うが、検討委員会としては、多くの人がどういうことばを通して市の未来像というものをイメージしているのかという目的でアンケートをとっているわけで、そう軽々しくは考えられないことである。

多くの方が、いろいろなバランスとか認識でアンケートにお答えいただいているので、バランスの問題として、ことばがどういう位置関係にあるかと

いうことを考慮すべきであろう。

・市民憲章というのは、特定の市の市民憲章であるから、そこで何を述べるべきか、また、価値観の選択をするのが市民憲章の一つのあり方なので、何を基にしてどう選択をしていくか、こういった点が問題だと思う。

(市のよさ・魅力について)

・資料の後半に、『雰囲気似ている他市の市民憲章(例)』があるが、西東京市になるべく似たようなもの、第1条とか第2条に「美しい」ということばがきていて、全体の文言のバランスも似ているものという意図で選んでいる。それでも、第1条に掲げている条文は微妙に違うことがわかると思う。これは我々にとって大事なことなのですが、西東京市というのはそもそもどんなまちなのか、住んでいる人が西東京市のよさと感じているものは何なのだろうとか、そういった人に地域愛というものがあるとしたら何なのだろうとか考えたときに、市のよさというものはあると思う。では、今後、西東京市というのはどういう魅力あるまちになっていくかとあらためて考えてみると、たとえば縄文遺跡があるにしても、遺跡的な重要度、ネームバリューが高いところは他にも東京近郊にも多数あり、また、大きな滝だとか川だとか、山がそびえているわけでもなく、特徴がないといえば特徴がないまちである。これは大都市近郊のベットタウン的なところから発達したまちではそう珍しいことではないが、そういったところは多くの人があったかいまちだとか、そこにいてよかったとか、平凡なことが多々あるかもしれないが、とにかくそこに暮らしているとなんとなく幸せな感じになるとか、そういったところが一番大きいのではないかという気がする。そうすると、多くの人アンケートの結果として、「やさしいまち」というのを望んでいるというのは、あたるっているのかなという気がする。特別何か売り物があって、それでやっていくとか、企業城下町的なイメージとは全然違うまちですから。そのようなことも他の市の市民憲章をみていると感じる。

(市民憲章の文案について)

各委員の文案について、提案にあたっての考え方を補足しながら紹介

(提案にあたっての考え方・前文)

前文-1

・「二十一世紀」と漢数字を用いたのは、市民憲章は縦書きというのが多くの前例であるため。

・個人的な心情もあり、「武蔵野の面影を残し」と入れてみた。

・「市民ひとりひとりが個性豊かにいきいきと」については、本文に入る内容かもしれないと発言したところだが、必ずしも本文の内容と重複しているとも思えない、これはこれで入れてもいいと考えた。

・「いつまでも皆が心を合わせ力を合わせて励むことを誓い」については、最後の締め文が短すぎる気がしたため、蛇足とは思ったが加えてみた。

・「ここに市民憲章を定めます」の「市民憲章を」の部分は、このほか正式名称や単に「この憲章を」という言い方をする例もある。

前文-2

・書き出しは、前文-1の形だと「が」が続くので、「西東京市は～」という書き方にしてみた。

・「青梅街道唯一」にしてみたが、前文-3の表現の方がいいと思った。また、「唯一」や「随一」は読みやすいことばではない。

・「自然の恵みに」は、「感謝しつつ」の方がしっくりくる感じ。

・「ひとりひとりが…」は本文にしたので、全体的に短くなった。

・「まちをめざして」の部分は、一度切ってそのあとに長めの文章をもってくの方がいいのか考えたが、こういう形にしてみた。

前文-3

- ・本文を絞りこむので、残したいことばを前文に盛り込んでみた。
- ・「21世紀のはじめ」だと、後々はっきりしなくなるといけないので2001年とはっきり書いたほうがよい。
- ・市の特色の一つとして、「武蔵野の面影を残す」と表現した。
- ・「縄文のいとなみ」は「縄文遺跡」といいきった方がよい。
- ・前回本文に入れていた「自然と共生」を前文にもってきた。
- ・3周年という表現はそんなに強調しなくていいので、本文の最後に（3周年を記念し...）と置けばよい。

前文全体について

- ・西東京市の誕生は「21世紀最初の合併」が枕詞になっていたような形だったので、「21世紀に初めて誕生した市」ということをもう少し強調できないか。
- ・新市制3周年の節目として市民憲章を定めていくという、3周年記念の一環として位置付けられており、新しい市の基本構想ができて本格的に動いていくなかで、この3周年を記念して市民憲章を定めるという内容は前文に明記したほうがよい。

（市制 周年を記念についての補足）

- ・全国的にみても、市制 周年という年に市民憲章を制定した例は非常に多く、記憶に間違いがなければ全国の70%くらいはそういう節目の年に制定している。ただし、その制定事情を市民憲章の文言に入れていっているかどうかについては、前文に入れている例はそれほど多くはない。
- ・西東京市の流れからいえば入れてもいいのかなという気もするが、パブリックコメントで意見ができれば、入れたり削ったりというレベルでよいと思う。

（提案にあたっての考え方・本文）

本文 スタイル1-2

- ・前回提案のあったスタイル1の趣旨を生かして、ことばを多少置き換えてみた。
- ・「このまち」ということばにこだわりがあったので使ってみた。
- ・「自由と平和を求め」の部分は、前回論議のあった部分だが、このまま生かした。

本文 スタイル1-3

- ・「歩けるまち」はみんなが一番願っていること。バリアフリーのまちとか歩ける道路ということが各種アンケートでも一番出てくる。
- ・「明るく育ち」は未来に明るさが必要、「元気に老いる」は誰でも老いるが元気に老いたい。
- ・「今あるものを活用し...」資源は有限、人口も減る、活用し大切にしていかないとあとがもたない。
- ・「世界の人々と共に...」は、「～実現したい」と変えた。
- ・前回あった「だいすきな西東京」は、削ることにした。

本文 スタイル2-1

- ・和語だけでつくっているということを視覚的にも強調するため全部ひらがなにした。
- ・「...したい」という形式にこだわって作った。短い文章（ことば）を、いい切りの形を強くしてバランスをとるということで、～したいという強めのいい方はマッチする。その考え方を進め、「...したい」もとってしまうとどうなるか。リズムとしては5・7・7で、和歌の長歌のリズムになる。

ただ、そこまでやると、まちづくり標語を並べたイメージになるので、「～したい」とあえてリズムを崩すようにいいきった方がいいと思う。

・内容的には、アンケートの分析から、これらのことば（やさしい、うつくしい、あかるい、たのしい、すみよい）ははずせないと判断した。アンケートの結果をとりいれるという含みである。

本文 スタイル 2-2

・形容詞で人の行動とか意思というのを表現するのは難しい作業で、前回の案とほとんど同じである。「活力」を「いきいき」に置き換えた程度。

本文 スタイル 2-3

・委員皆さんの案の趣旨を取り入れながら作った。

本文 スタイル 3-1

・前回スタイル 3 とした案の内容を生かしながら切れるところは切ってまとめてみた。ただし、アンケート結果にこだわり、最後のいい切りの部分を「やさしい」、「美しい」、「楽しい」、「住みよい」ということで、これは動かさない前提で、それに見合うイントロをなるべく文字数も揃うようにまとめてみた。

・最後のどういうまちにしたいかについては、形容詞の内容はアンケートにかなり忠実にとり入れている。また、抽象的なイメージを少しでもリアルにするように、あまりイメージに違和感がない内容をもってくるような前振りをつけた。文章の結びは「つくりましょう」（まちにしましょう）と変化をつけた。これは、長めの文章に「...したい」がじっくりこないと思うことと、パブリックコメントに出る 2 案とも「...したい」ではまずいのではないかという意識がある。

本文全体について

・スタイル的には「...したい」という形がよい。

・全部ひらがなというのはどうかと思う。小学生だけを対象にしているわけでない。

・声に出して読んだときに、耳あたりのよいもの、やさしい感じに聞こえるものが市民憲章としてはいいと思う。漢字が多いと文章的にはいいものでも、読んでみると固く感じる。文字数を揃えることも必要と感じた。今回のなかでは本文のスタイル 2-2 が読んでみるといいと思う。

・内容的にみると、内容が大きすぎて西東京市の市民憲章にそぐわないと感じるものがある。市民憲章で考えたときに、「世界の人々」とか「自由と平和」というのは大きすぎて、西東京市の市民憲章でなくてもいいという気がする。

・前文で西東京市のことを書いていて、本文にくると「世界の人々」ではちぐはぐな感じがする。

・前文との関連からいうと本文のスタイル 2-2 が一番マッチしている。前文で西東京市について言及しているから、あとは「このまちをどうしたい」という言い方でいいと思う。このまちをどうしたいということでは「世界平和」ではないと思うので、西東京市のベクトルで考えた方がよい。

・前文の中では地域性が出るが、他市の例を見ても本文の中で地域性が出ているという感じを受けない。そういうものだとしたら、できるだけアンケートを踏まえてバランスよくもっていったほうがよいと思う。

・この検討委員会として十分気をつけなくてはいけないことは、個人のコンペティションではないということで、自分の主義・主張とか、自分の好みとか、あるいは競作（たとえば市の歌のように、自分の好きな歌詞で自分の好きなメロディで歌を作って審査員が審査して 1 位 2 位 3 位と順位をつける）ではなく、市民の意向をどう盛り込むか、そのためにどういう手法で、どういうデータを基本にしていくか、この観点が重要である。

(内容の確認について)

- ・前文1案、本文2案にまとめてパブリックコメントに出せる段階に持っていくため、確認できるところから確認を取っていく。
- ・資料[西東京市・市民憲章](素案)をベースに検討をすすめる。

(題・名称)

・オフィシャルな名称について、資料には4つあげている。オーソドックスという言い方をすれば3番までのどれか、またあえて誓いということを強調するのであれば事例も多くあるので「市民の誓い」という市民憲章の形。これ以外のものもあるが、あまり奇異なものかどうかと思う。

・他市の例では市民憲章と市を重ねていない。西東京市市民憲章では言いにくいから西東京市市民憲章でいいと思う。

・この4つは事例が多い順に並べている。

・4番がいいと思う。望みとか希望が述べられているものに、ただ市民憲章とついているより、内容が「...したい」ということであれば誓いという形にしてもいいと思う。

・2番にしたい。これだけは譲れない。西東京というのは、そういう名前がついた由来自体がはっきりしない。だから西東京市という自治体の名前としては受け入れられるのだが、西東京というと地域を指すのか市を指すのか漠然としている。たしかに市民憲章というのは自治体ごとに制定していることは明らかなのだが、たとえば上越市も上越という地域があるが、上越市市民憲章としており、地域なのか市の名前なのかあいまいなところは市を重ねているようである。それなりにこだわっているようである。東京都でいえば多摩市・武蔵野市がそれにあたるが両市とも未制定。別の例では、高校野球の大会では23区か三多摩かで東と西にわけたり、八王子あたりに西東京バスが走っている。

・今の話は、結局、西東京ということばに対する語感の問題といえる。事例からいうとまた平凡・オーソドックスでいえば何といても1番目なのだが、結局、西東京ということばが単独で出てくるのはいやだというような潜在意識があると、1番は支持されない。要するに「市民憲章」ということばの結びつきがとても強いから、本当は西東京市民の憲章と続くはずなのだろうけど、西東京と市民憲章で切れてしまうのである。そうすると、西東京という語感だけが浮いて、嫌なことばが独立してしまうわけで、だからどんなことがあっても西東京市までいかないと割り切れなくなるのであろう。

・市民憲章というと、市民と憲章は一体不可分なものなので(区民憲章とか言い換えはあるが)、本来、正確に言えば「西東京市市民憲章」なのではないかと思う。実際はそうは言わないが、考え方はそれに近いのではないか。

・決をとる。2番で一致(承認)

(副題)

・この委員会では、副題は無しで考えてきたが、他市の例で副題がついている例もいくらかあるので、もしも副題を考えるとしたら、資料に載せた程度の副題をつけることも可能であろう。

・あえて副題をつけることはないと思う。

・副題はなしとする。(承認)

(前文)

- ・21世紀に『初めて』誕生した市というニュアンスは文章が作りにくいし、また文章になると抵抗がある。
- ・書き出しは「二十一世紀のはじめ、西東京市は、田無市と保谷市の合併によって誕生しました。」で、こだわるようだが「二十一」と漢数字にしている。
- ・続きは「市内には」ではじめると「発展してきたまちです」という述語の主語がはっきりしない。「わたくしたちのまち西東京市は」がよい。
- ・西東京市が重なるが、歴史の新しいまちは、まちの認識がうすいので、くどいといえなくともいかもしれないが、「新しく誕生した西東京市はわたくしたちのまちである」ということを、くどくても言う意味はないわけではない。
- ・「縄文遺跡」は固い言い方、「縄文時代の営みの跡」も微妙だがこちらをとる。
- ・縄文時代から江戸時代までとぶのは気になる。「武蔵野の面影を残し」などワンクッションあって江戸時代にいくほうがよい、イメージの流れから言っても。
- ・「青梅街道の宿場町」の部分は「江戸時代から青梅街道の宿場町として栄えた」がよい。
- ・「歴史と文化の薫り高いまちです」については論議の分かれるところ。宿場町として栄えた歴史は問題ないが、そのことが文化の薫り高いと違和感がないか、文化の薫りにみあう前振りがあるかどうか。
- ・「文化」というなら、それに見合う前振りがないと苦しい。地域の芸能ということだとどの地域にもあるもの。地域に見合った「伝統とか歴史」で押さえておくべきだろう。
- ・「歴史」というと何となく過去のものというイメージだが、「伝統」というと今につながる感じがする。
- ・まとめると「わたくしたちのまち西東京市は、縄文時代の営みの跡や武蔵野の面影を残し、江戸時代から青梅街道の宿場町として栄えた伝統のあるまちです。」
- ・次は「わたくしたちは」ではじめ、「先人から受け継いだ貴重な遺産」は入れなくてもよい気もするが、入れておきましょう、このあと「自然の恵み」というか、「緑の農地」とか「雑木林」のようにいうか。
- ・「緑」という、ものすごく重要なキーワードを本文で使うつもりなら前文には持ってこないほうがよい。本文というのはコンパクトにしているから一語一語の重みが前文より重くなるので、本文に「緑」ということばを使わないならよいが、本文に入れるなら前文に「緑の」とか「緑豊かな」という表現はしない方がよい。
- ・「自然の恵み」といったとき、多くの場合は川、海、湖、気候などいろいろなものが入ってくるから広すぎるともいえ、大事にすべきものは少し限られてくるのではないか。ただ、「自然の恵み」のなかには、大きな災害がないということもある。関東全般に言えると思うが、自然気候に対しては暮らしやすい。
- ・「大切にしつつ」と「感謝しつつ」はどちらがいいか。…「感謝し」とする。

(承認)

- ・続いて「市民ひとりひとりが個性豊かにいきいきと暮らせる」というところ、簡潔に「ひとりひとりが輝くまち」という言い方もある。
- ・「輝くまち」はよく使われる。個性は多様性につながる。
- ・この部分は本文に入るべきことかもしれないという考え方もある。ただ、本文と重複しなければ入れてもそう違和感があることではない。
- ・「まちを目指します。」で一度切るということでよいか。
- ・まとめると「わたくしたちは、先人から受け継いだ貴重な遺産や自然の恵みに感謝し、市民ひとりひとりが個性豊かにいきいきと暮らせるまちを目指

します。」となる。

・「新市制三周年を記念して」を入れるかどうか。

・いつ制定というものが前か後に付くことはあるが、事務的なデータとして入るわけで何周年を記念してというようなことを()内に書く例はないと思う。まったく入れないか、入れるとしたら前文に入れるかのどちらかになると思う。ただし、前の文が「～目指します」で一度終わっているので、「新市制三周年を記念して」と入れないと、「市民憲章を定めます。」ということばが浮いてしまう。

・前文-1の、「いつまでも皆が心を合わせ力を合わせて励むことを誓い」は「誓い」ということばにこだわらなければみんな抜いてしまってよい。

・では簡潔に「新市制三周年を記念して、ここに市民憲章を定めます。」とする。(承認)

(本文)

・本文は2案に絞る。

スタイルA 「このまちを～したい」

スタイルB 文章を長めに、説明とか具体的な文言をいれて、「～しましょう」という形

・本文スタイル2-2を中心に検討していくが、気になる点がある。

「生き生きした」は「活力のある」を言い換えたそうだが、前文に「いきいき」ということばが入ることになったので重複を避けたい。

「学びあい」ということばが気になり調べてみたら全国で1例だけあった。多くの人聞いて理解できる日本語かどうかという意味合いではそれほど定着していることばではない。

アンケートの使われていることばで「やさしい」「美しい」は入っている。「こころ豊かな」ということで「豊かな」も入っているといえる。そのあとが入っているところが少ない気がする。1つの提案として「住みよい」というのは総合的な形容詞なので前文に入れたらどうか、たとえば「新市制三周年を記念して」の次に「明るく住みよいまちにするために」とか入れるかどうか。そうすると「個性豊かに」云々というとなんとなくしつこい感じがする。

・本文スタイル2-2の4番目の「人と物のゆき交う 生き生きしたまち」は文言を工夫して「夢のあふれる住みよいまち」「いつも明るく楽しいまち」というイメージが1つにならないかという気がする。

・私の選んだことばは「楽しいまち」で、「楽しい」ということばの中に、「生き生きした」だとか、みんなが張りきって働いているだとか、そのようなイメージが込められないか。

・「学びあい」というのを自分としては案文として残したくてこういう形になった。最終的には残らなくてもよいが、私案としては「学びあい」を残したい。

・「こころ豊かな学びあいのまち」というのは、今回心の努力目標みたいなことが少ないので、4番目に持ってきて、3と4を入れ替え、3番目は「人と物のゆき交う楽しいまち」という形なら、わかりやすいのではないか。

・どこかで、「希望」・「未来」・「夢」ということばを入れたい。前文にも入っていない。「夢のあふれる」という言い方にしてみたが、いい案ではないようだ。「夢のあふれる」という内容と「人と物のゆき交う」というイメージをコンパクトにまとめられるようなことばがあれば、そのあと「楽しいまち」にしたいというのがピッタリくる。

・「人と物のゆき交う」というのは現象ですから、物流とか交通量が多かったらいいというようなイメージがあるが、そういった状況ではなく、多くの人何かに向かって立ち回っている、努力している、動いているというイメージ

の方が好ましい気がする。

・「ゆめのあふれる」と使っているが、あふれるという日本語はいいことばではない。超えたら困る、量を超えるというように、本来よくないときに使う。
・確認になるが、本文スタイル 2-2 の 4 番目の「生き生きした」は前文と重なるので言い換えたいが、その前に「楽しい」ということばを使っていたということだったらその方がいいと思う。「楽しいまちにしたい」でいいのではないか。また、「こころ豊かな 学びあいのまちにしたい」はこのままでよいのではないか。ただし、1 つ下げて 4 番目におきたい。心の話を最後にしておく方が重みがある。

・「明るい」、「住みよい」ということばについては、「明るい」は「楽しい」に近いことばなので、「楽しい」ということばが「明るさ」をイメージしているといえる。「住みよい」については、「素晴らしい」・「住みよい」は極度に抽象度が高くなる広いことばなので、他のことばで補っていると解せる。

スタイル 2-2 をベースにして、順に確認をとっていく。

・「たがいに助けあうやさしいまちにしたい」これでよい。

補足として、「こころふれあう」という言い方もあるが、「ふれあい」というのはキーワードとして重く、市の施策目標にイメージが近くなるといえる。また、「助けあう」ということばもかなり重いことばで、「思いやり」といってもイメージとしてはとても近いことば。

・「緑に満ちた美しいまちにしたい」これもよい。

「緑豊かな」という言い方もあるが、あとで「こころ豊かな」と出てくるので、「緑に満ちた」でよい。前文の「個性豊かに」とも重なるが、これは外せないでしょう。

・「こころ豊かな学びあいのまちにしたい」他にあまり例はないと思うが、これはこれですばらしい。4 番目におくということであれば、アンケートの上位のイメージ 3 つまでのグループはそのとおり取り上げていることになる。

・「人と物のゆき交う楽しいまちにしたい」については、「人と物のゆき交う」というのが別の表現にならないか。また、「夢」ということばが入らないか。

アンケートのことばとしては「希望」の数の方が多いが、和語という趣旨からすると、「希望」に一番近い和語は「夢」であろう。「希望」、「夢」、「未来」が同じイメージ。「夢がある楽しいまちにしたい」はどうか。「人と物」ということばが冷たい、さみしいのも事実。使われ方もあるがもともと無味乾燥なことばである。

・「夢」は入るのであれば前文に入れる方法もある。たとえば、「個性豊かにいきいきと暮らせる夢のまちを目指します。」ではどうか。

・「夢と希望のまじわる楽しいまちにしたい」

・「楽しい」はむずかしい。人によって何が楽しいかという価値観が異なる。

・ここであらわしたいのは「活気のあるまち」のイメージ。

・「楽しい」ということばを選んだバックには、「明るい」ということばを包含しているという前提がある。本来であれば「明るい」の方がアンケート結果には忠実なのだが、「明るい」という言い方は広すぎる、「すばらしい」、「住みよい」ということばと近いかわかりにくくなる。「楽しい」の方がより具体的なので、「明るい」イメージは「楽しい」ということばに込めている。

・あらためて考えると、「楽しさ」の元はといえば享楽のようなことではなく、前文に掲げてある、「個性が豊かに」というのは一人一人が前向きに目標に向かって努力しているときでない個性など出てこない、人に言われたことをやっているようでは楽しくも何ともない、だから「楽しい」ということは、何か活気がある、やっている本人が何かに向かって一生懸命何かをやっているときというイメージがある。そうすると表情も明るいだろう、そういうイメージを表わしたい。

・「個性輝く楽しいまち」... 輝くはいいが、個性が前文にあることと、なるべく漢語を使いたくない。

・これまで決まったことを確認したい。

本文A案として

このまちを たがいに助けあう やさしいまちにしたい

このまちを 緑に満ちた 美しいまちにしたい

このまちを 夢がある 楽しいまちにしたい

このまちを こころ豊かな 学びあいのまちにしたい

3番目はペンディングとしておく。

スタイルBとして、スタイル3-1を基本に検討していく。

・このスタイル3-1というのは、最後の結論の部分をそろえ、それに説明をつけたことになっているので、「やさしい」「美しい」「楽しい」というのは、先ほどのスタイルAと変わらないし、変えないほうがよい。最後は「住みよい」である理由はないから変更できる。あとはそれらのイメージに見合う前振りの文になっているかどうか、どのようにも変更できる。ただ、文章の長さから言うと、スタイル3-1くらいの長さがいいと思う。

・必ずしもこだわるわけではないが、スタイル3-1も全部和語である。しかし、ある程度説明的にするならそれほどこだわる必要もない気もしている。

・言い切りの形をどうするか。「～のまちをつくりましょう」でよいか。個人的な意見としては「～したい」はよくないのではないかと。理由として、「～したい」は全国的に例がないこと、オーソドックスな方がいいという人もいると思う。

・パブリックコメントで出す2つのスタイルの結論の部分が異なっている、要するに、文章の形は変わっている方がいいが、主張している内容が異なってはいけないと思う。選ぶべき価値が全然違うものをパブリックコメントで出すわけにはいかない。そこまでは委員会の役目である。そうすると、スタイルAの4番目「学びあいのまちにしたい」がスタイルBの4番目にきて「学びあいのまちをつくりましょう」でよいと思うが、その前振りの部分に見合う説明にかえなくてはいけない。そうすればスタイルの提案が一貫する。

・スタイル3-1のもともとの趣旨は、1～3番目まではアンケートの結果に忠実にというニュアンス、4番目については、本来市民憲章というのは作ったあとみんなで力を合わせていろいろなことをやっていかななくてはいけない、汗を流すくらいのもりがないと前に進まないというようなことを最後に言っておきたかった。それをどういう価値と結びつけるかといったときに、残った「住みよい」をいれて作っている。

・4番目を、「このまちを自由に平和なやすらぎのまちにしましょう」にしようか。

・4番目については、アンケート順位3位まではクリアしているので、ここは自由度は高いところではある。だから、「自由と平和を実現し住みよいまちをつくりましょう」としてもそれほど違和感はないかもしれない。しかし、「やすらぎ」ということばはそれほど支持されていない。

・そこまでこだわらなくてもいいのではないかと。

・ある程度はこだわらなないと、何のためにアンケートをやったのかということになる。説明できる範囲でやるべきであろう。

スタイル3-1をベースにして、順に確認をとっていく。

・1番目だが、「子どもからお年寄りまで」というところが抵抗があるという声があるが別のいい方でもかまわない。

・「世代をこえて」がよいのではないかと。

・「世代をこえて、遊び、学び、助け合う」としたい。

全部入れる必要はない。「世代をこえて心ふれあい助けあう」といえば、その内容が全部入っている。

・多くの人が共感できる内容かどうかが問題になる。「世代をこえて心ふれあう」というと浮かんでくるイメージがあると思うが、「世代をこえて遊ぶ」となるとイメージがわかりづらいのではないか。スタイルBは具体的なイメージがわくような趣旨で文章を作る方向であったと思う。

・「世代をこえて心ふれあい助けあう」と書いてあると、どんな時でもいろいろ想像ができる。ここに、「遊び」とか「学び」とか限定したことばが入ってくると、それだけということになってしまう。「心ふれあい助けあう」にはいろいろな含みがある。「遊ぶ」ことも「学ぶ」こともいろいろなやり方が出てくるような含みを残しておいた方がよい。解釈が広がる。

・「世代をこえて」でいいと思う。そして、できれば2番目以下もこれに近い文字数で作りたい。文章の長短はなるべくない方がよい。また、「世代」という漢語を入れるので、和語にこだわる必要もないだろう。漢語を入れてきりっとしたい方がいいにしてもよい。

・2番目の「水と緑を大切に」はいいと思うが、「ふるさとが育んできた」を考えたい。これは、西東京という地がこれまで大切にしてきたという含みで「ふるさとが育んできた」という表現にしたのだが、「限りある資源」というような内容をくいだいた表現にしてもよいと思う。ただ、「資源」ということばはきびしい。ことばの連想表みたいなのがあり、たとえば「資源」ときいたときにどういうことばを連想するかというもののだが、たぶん石油が第1位になると思う。どういうイメージで「資源」ということばを使っているかはわからないが、ふつうに「資源」と聞いたとき他のことばと誤って聞かれることも少ないと思うが、「資源」ということばの持つイメージは「水」とか「緑」というイメージにはつながらないと思う。石炭、石油などエネルギー資源を連想する人がはるかに多いと思う。

・今、緑がなくなり、水が危機にあるから、「水と緑」「限りある資源」を大切にといえば、水と緑が一番大事だということと、石炭も石油も他のものも限りがあるから今のように使っていないから、「資源」ということに注目してほしい。

・「美しいまち」にはつながらないかもしれない。

・だから、「自然と共に生きましよう」

・「自然」ということばは、最近多くの人が受け入れやすいことばである。「自然」といっても、大自然とか、環境的なイメージで「自然」ということばを思い浮かべる。「自然に親しみ」ということばでいいのではないか。「自然に親しみ 水と緑を大切に 美しいまちをつくりましよう」、「世代をこえて」ということばに数も近くなっておりいいのではないか。「美しいまち」をつくる手立てとして、「自然に親しみ 水と緑を大切に」するというニュアンスがはっきりする。

・3番目だが、「あちらにもこちらにも」はそう悪くはないが、「世代をこえて、自然に親しみ」に近い表現、漢語を入れた方がいい。「活気」とか「活力」とか入れたい。「あふれ」ということばに抵抗がなければ「活気にあふれ 夢と笑顔に満ち満ちた」でどうか。「活気にあふれ 夢と笑顔に満ち満ちた 楽しいまちをつくりましよう」この形でおいで。

・どうやっていきいきと夢と笑顔が満ちあふれるのか、もう少し何かほしい。

・「活気にあふれ」と入れば、にぎわうというニュアンスがはっきりすると思う。ただ静かに、暗く、ポテンシャルが低い状態で市が推移していけばいいというイメージではない。創造的・活動的な部分もなくてはいけないというニュアンスも込められる。

・これだと市民がという形だけで、議会と行政はどうするのか。
・こういうまちをつくるための施策・アイデア・努力目標はさらに具体化するのではないか。

・最後だが、3 つ目までで我々の姿勢・態度としては、かなりノルマはクリアしている。だから 4 つ目についてはかなり自由度が高いということで、スタイル A で決めた「心豊かな学びあいのまち」とリンクさせる必要は必ずしもないであろう。

・漢語ではじめる形できているので、「平和を実現したい」というような大きすぎるものでなければ、「平和」とか「自由」を意識して「このまちを住みよいまちにしたい」くらいならよいのではないか。・スタイルの A と B が対照するように、「お互いに学びあい力を合わせ～のまちをつくりましょう」かどうか。

・スタイル B を文字にすると、まちがいなく最初の漢語が強く浮かんでくる。以前議論にあがったテーマごとにきているというイメージになる。結局漢語に目がいく。そうすると、「世代」、「自然」、「活気」とくるわけで、だから 4 番目も「学びあい」という雰囲気を表わす漢語が入った方が、むしろ「文化」とでも入ってきた方が、「文化が薫り」くらいで本文に入っていることは多い、例えば「文化の薫り高いまちにしよう」とか（前文に入れることについては先ほど申し上げたが。）だから、「学びあい」というのは究極目標は何なのかを漢字の熟語でいえればはっきりするかもしれない。

・「文化が薫り」で違和感ない。努力目標として「文化が薫るまち」というのはいいと思う。ただ、「住みよい」と「文化が薫る」は少し合わない気がする。

・「文化が薫り、自由と平和な、住みよいまちをつくりましょう」

・「自由と平和な」でもいいが、「住みよい」というのがあわない気がする。ただ、さきほどの「学びあい」がどこかへ行ってしまった。「文化が薫り」をやめて、「平和を求め」としても続く。たとえば、「平和を求め」、「さわやかな汗を流しあい、住みよいまちをつくりましょう。」「学びあい」を意識せず自由度を高めると、ひとつの答えではある。インパクトとか感じがいかとかは別の話になる。

全体をとおして保留箇所の確認

・全体をとおして A 案の 3 条目、「人と物のゆき交う」というところ、B 案の 4 条目をどうしようかというところで決められると思う。

・前文については読み返してみたがこれでいいのではないか。しいていえば、「わたくしたちのまち西東京市は」が少しくどいようだが、入れた方が、新しくできたまちだからこそこう言いたいという感じになる。前文はこれによって、パブリックコメントが終わったあと再検討すべきことがあれば再検討する。

・A 案の 3 条目、「人と物のゆき交う」の部分、「夢のあふれる」ではどうか。
・「夢の広がる」

・それはもっといい。「夢」は入れた方がよい。これで決めたい。

・B 案の最後、「文化が薫り」は暫定なので取り替えてもいい。一つの案として、「学びあい」を意識しなければ、たとえば、「平和を願って、さわやかな汗を流しあい、住みよいまちをつくりましょう」

・「教養深く、文化と伝統の薫る、住みよいまちをつくりましょう」

・「伝統」は前文と重なる。

・テーマで考えると、ここは「平和」になるのか。

・A 案の方が「学びあい」なので、ここは「文化」を出した方がよいと思う。

・そうすると、汗という表現は退けた方がよい。ただし、一つの立場としてきれいごとだけで市民憲章をすましてはいけないという話もある。動かなく

てはとか、いろいろな立場の人がいても、とにかくみんなで一緒に汗を流さない限りいいまちづくりはできないというメッセージは含まれている。

・「文化が薫り」ということでいくと、「学びあうまち」とか、教養色を感じさせるまちにしたいということでもよい。

・「文化を高め」くらい言いきってもよい。

・A案で、「こころ豊かな学びあいのまち」といっているので、「文化を高め、学びあい、～のまちをつくりましょう」ということではどうか。

・そうすると、「住みよい」ということばがびったりこない。さきほども話をしたが「住みよい・すばらしい」ということばは、何もかも含んだことばでもあるので、ここは「住みよい」の代わりに「すばらしい」にしてもよい。そうするとアンケートの結果にも忠実に1位から4位を使っているといえる。「文化」と「学びあい」から「すばらしいまち」という点もしっくりくる。

・「学びあい」に何か付け加えたい。

・前文にある「個性豊かに」を持ってきたらどうか。「個性豊かに学びあい」。

・まとめてみると、「文化を高め 個性豊かに学びあい すばらしいまちをつくりましょう」となる、これでいいのではないか。

・ここまでに決まった案について、漢字・ひらがなの用い方の確認。

本日の結論（確認）

前文

二十一世紀のはじめ、西東京市は、田無市と保谷市の合併によって誕生しました。

わたくしたちのまち西東京市は、縄文時代の営みの跡や武蔵野の面影を残し、江戸時代から青梅街道の宿場町として栄えた伝統のあるまちです。

わたくしたちは、先人から受け継いだ貴重な遺産や自然の恵みに感謝し、市民ひとりひとりがいきいきと暮らせるまちを目指します。

新市制三周年を記念して、ここに市民憲章を定めます。

本文A案

このまちを たがいに助けあう 優しいまちにしたい

このまちを みどりに満ちた 美しいまちにしたい

このまちを ゆめの広がる 楽しいまちにしたい

このまちを こころ豊かな 学びあいのまちにしたい

本文B案

世代をこえて 心ふれあい助け合う

優しいまちをつくりましょう

自然に親しみ 水とみどりを大切にして

美しいまちをつくりましょう

活気があふれ 夢と笑顔に満ち満ちた

楽しいまちをつくりましょう

文化を高め 個性豊かに学び合い

素晴らしいまちをつくりましょう

・以上の内容で11月1日から2週間パブリックコメントを実施する。

（次回の日程について）

・第7回 11月5日（水）午後6時00分

・本日ふれられなかった、市長に対する要望も含めた付帯意見等及び委員会の報告書のスタイル・内容などについて検討したい。 閉会

